

# 中国済南市における労働者家庭の生徒の学業達成

学校教育開発学コース 張 建

The Educational Attainment of Students from Working Class in the City of Jinan, China

Jian ZHANG

Recently the social structure of the city in China is changing dramatically. Socio-economic situation of each class has changed greatly, with the working class falling from the upper to the lower social class. It is thought that this transition profoundly influenced the educational achievement of children from working class.

In this study, by interview analysis of working class families from the city of Jinan, the possession of various capitals, which including physical, culture and social capitals, and the strategy of education of working class families were described. In addition, the position of each family in the working class was analyzed as well.

The results suggested that the lack of capitals influenced the attainment of the children from working class greatly. At the same time, although belonging to the working class, the different social positions of each family also had a big influence on the attainment of the children.

## 目 次

1. 問題意識
2. 分析枠組みと研究課題
3. 調査方法とデータ
  - 3.1 調査方法
  - 3.2 労働者家庭の親たちの出身家庭
  - 3.3 父親の職業変化
4. 成績下位の労働者階層生徒とその家庭
  - 4.1 成績下位生徒の親の職業的状況
  - 4.2 成績下位生徒の家庭の諸資源
  - 4.3 成績下位生徒の家庭の教育戦略
5. 成績上位の労働者階層生徒とその家庭
  - 5.1 成績上位生徒の親の職業的状況
  - 5.2 成績上位の生徒家庭の諸資源
  - 5.3 成績上位生徒家庭の教育戦略
6. 結び

### 1. 問題意識

本稿の目的は、中国済南市の労働者家庭の諸資本の分析を通して、その子弟の学業達成の差異をもたらす家庭的要因とプロセスを捉えることにある。その際、中国労働者階級の社会経済的地位の変化に着目する。

1949年10月に中和人民共和国(以下中国)が成立した

後、中国の社会構造は大きな変化を経験してきた。その社会変化を大きく分けると、2つの段階が存在する。

第一段階は1949年から1978年である。この段階では土地改革運動、農業集合化運動、社会主義工商業改造運動などの革命的な経済政策によって、中国の旧上層(地主、資本家など)の資産が剥奪され、中国社会の経済秩序が完全に変わった。さらに、文化大革命によって、教育機会、就職機会などの社会移動の側面においても、旧上層と新上層階級に有利な構造が大きく変わった。1978年までの中国社会では、旧上層階級が消滅し、社会の階級構造がある程度単純化していた。工場労働者階級(工人階級)、農業労働者階級(農民階級)および知識人グループによって構成されていた。この時の社会分層の分化の多くは、政治的な要因(出身階級、本人の政治身分、政治的立場、政治的視点など)によっていた。同時に、平均主義の経済的階層政策が当時の巨大な政治的階層の格差に対して補償作用と均衡化作用を果たしていた(李強 2002)。

第二段階は70年代後半から現在まで続く。1978年の「中国共産党11期中央委員会第3回全体会議(三中全会)」において、改革開放路線が打ち出された。以来中国では、漸次的に市場経済が導入され、経済構造は大きく変わった。以前の計画経済が主導する経済構造は、国有企業と私有企業を混合する形となり、多様な所有権の企業形態が現れた。経済構造の変化とともに、中国

の社会構造も変わりつつある。現在の中国社会の構造について、いくつかの分類方法があるが、職業を基準に所有する経済資本、組織資本、文化資本の量によって社会階層を分類するのが主流である。中国社会科学の陸学芸らの研究によると、中国社会を「国と社会の管理者階層」、「経理者階層」、「私営企業主階層」、「専門技術者階層」、「事務人員階層」、「個人経営商工業者階層」、「商業・サービス業の従業員階層」、「産業労働者階層」、「農業労働者階層」、「都市と農村の無職・失業、半失業者階層」と10階層に分類することができるという(陸学芸 2002)。

中国の社会構造の変化と共に、各階層には利益の増減が生じている。李強の研究によると、中国社会の各階層を「特殊利益獲得グループ」「普通利益獲得グループ」「相対に利益が損なわれるグループ」「社会底辺グループ」の4つのグループに分類することができる。その中で、労働者階層は「相対的に利益が損なわれるグループ」に属する。工場労働者階級は長い間、中国社会のリーダー階級としての地位を有し、収入、福祉、教育、医療などの面で優遇されてきた。しかし、80年代以来、都市部の労働者階級は、工場の不況や倒産、そしてリストラを経験し、経済的に苦しい状況に直面している(李強 2002)。

中国の社会構造の変化は各階層の教育機会に大きな影響を与える。1949年から1978年までの30年間、中国は教育機会の増加と政治的な政策によって、各階層間の教育機会の配分はより平等化されて、教育機会と家庭の社会地位の関連性は弱まりつつあった。この平等化の過程は文化大革命によって頂点に達する(Deng, Zhong & Donald J. Treiman 1997)。しかし、1978年以降、中国の教育は市場化傾向を強め、親の社会的地位が再び子どもの教育機会に大きな影響を与えるようになっていく。(Zhuo Xueguang & Phyllis Moen and Nancy Brandon Tuma 1998)。

このような背景の下で、都市労働者階級としての社会上層から社会下層への転落経験は、都市労働者階級自身の生活に影響を与えるに留まらず、その子弟の教育アスピレーション、教育投資、教育戦略の選択に強く影響することが予想される。現在、中国において、教育機会の平等問題に対する関心は高まりつつある。とりわけ高等教育や教育年数に関する研究は盛んになっている。しかし、労働者階級の生徒の学業達成に関する研究、特にそのプロセスに関する研究はまだ不十分と言わざるを得ない。本研究は質的な手法によって、労働者家庭生徒の学業達成問題を考察したい。

## 2. 分析枠組みと研究課題

本稿では、家庭が所有する資本と親の教育戦略の両側面から、労働者家庭の子どもの学業達成に影響する要因とそのプロセスを分析する。

文化的再生産の理論において、ブルデューは社会上層が社会下層に比べて、文化資本をより多く所有し、学校において要求される文化と親近性を持つために、高い学業成績を取りやすいと指摘する。そして学校教育の成功において成功した社会上層の出身者は、地位達成においても有利である(P. Bourdieu 1986)。しかし、社会下層である労働者階層において、その文化資本の所有状況は必ずしも同じではない。労働者階層家庭の文化資本の所有状態やその差異の影響について、考察する必要があるだろう。

本稿において家庭の所有資本は、「経済資本」、「文化資本」、「社会資本」が含まれる。「経済資本」は、労働者家庭の収入を指す。「文化資本」には、親の学歴や、家に所有する本・コンピュータなど子どもの勉強に役立つ資源、そして親の子どもの勉強に対するモチベーションなどが含まれる。「社会関係資本」は子どもの勉強に影響をもたらす家庭の社会的ネットワークを指す。そして教育戦略は、ブルデューのその概念通り、必ずしも親の意図的な行動に限らず、明確な意識を持たない慣行的な行動も含まれる。

本稿では、労働者階層の生徒の学業達成に影響する家庭的要因に焦点を絞って分析する。分析の手法として、生徒の成績と家庭の状況分析によってカテゴリーの傾向性を抽出する方法をとっている。言い換えれば、本稿の最大の関心事は労働者家庭において成績に差異をもたらす共通要因にあるため、成績上位と成績下位の二つのカテゴリーに属する家庭の共通特徴を描くことに焦点を絞る。そのため、本稿では多くのケースの中で現れる特徴をカテゴリーの特徴と認め、カテゴリーの中の総体的な特徴と異なるケースを十分に分析の対象に入れていない。労働者家庭に存在する多様な状況の分析は、別稿で行う予定である。

## 3. 調査方法とデータ

### 3.1 調査方法

本論文のデータは、2002年から2004年にわたる済南市の中学生の子どもをもつ労働者家庭に関するものである。調査は以下のデザインに従って実施した。ま

ず、済南市の中学校から三つの中学校を選び出し、三つの中学校の2学年から一組ずつ抽出する。その三つのクラスの生徒全員に、親の職業や生徒の成績を尋ねた質問紙調査を実施した。その中で、学級における生徒の成績を軸にし、上位三分の一を成績上位、下位の三分の一を成績下位とする。成績上位および成績下位の生徒の親に家庭訪問の協力を申し出た。最終的に家庭訪問の許可を得た生徒の親と生徒に対してインタビューを実施した。

質問紙調査の対象となった三つの中学校の三つのクラスの生徒はあわせて167名である。その中で労働者家庭の生徒は63名である。インタビューの対象はそのうち18の生徒家庭である(表1)。

表1.インタビュー対象の構成

学校	生徒の数		労働階層 成績上位		労働階層 成績下位	
	学級 全体	労働 階層	全体 人数	訪問 人数	全体 人数	訪問 人数
Y 中学校	74	30	5	2	18	2
S 中学校	48	16	3	3	9	4
W 中学校	45	17	4	2	10	5
総計	167	63	12	7	37	11

インタビューは生徒の家庭で実施した。インタビューの対象は生徒の親の一人ないしは両方である。生徒の親の要求に応じて、二つの家庭については、家庭以外の場所でインタビューを実施した。

### 3.2 労働者家庭の親たちの出身家庭

本研究では、三つの中学校の18の労働者家庭においてインタビューを実施した。現在はすべて労働者だが、36人の親たちの出身家庭の職業は多様である。工場労働者出身は16人、工場管理・技術職出身者は4人で、工場にかかわる職の出身者は合わせて20人である。そのほか、専門職出身者は3人、政府幹部出身者は3人、軍隊幹部出身者は2人、サービス業出身者は5人、農業出身者は3人である。

この様な親たちの出身の多様性は、親世帯の中国都市部の職業形成の特徴を反映している。36人の親たちは1960年から1964年に生まれた世代である。親たちが工場に就職する時期、中国社会では工場労働者階層が社会の上層部に位置していた。工場労働者は中国社会のリーダー階層として位置づけられ、工場労働者になることはいい就職機会とみなされ、幹部や専門職の家

庭の出身者も工場労働者となった。当時の幹部家庭や専門職家庭の出身者たちにとって、工場労働者階層への移動は、下降移動というより、むしろ一種の平行移動あるいは上昇移動であった。

### 3.3 両親の職業変化

インタビューを実施した労働者家庭の親をその職業の変化によって、上昇型(労働者→現場導者・技術者・営業)、維持型(労働者→労働者)、失業型(労働者→失業・半失業・一時帰休)の3つのパターンに分類できる(表2)。

表2. 父親の職業変化

父職 生徒	上昇型	維持型	失業型	総計
成績上位	4	2	1	7
成績下位	0	3	8	11
総計	4	5	9	18

#### 【事例紹介1—失業型家庭】

Y5の父親は41歳、母親は43歳で、ともに中学校卒である。15年前河北省威県の農村から済南市にきた。済南市に来る前に、結婚して、2人子どもを生んだ。祖父は、「山東省〇〇庁」の庁長であったが、Y5の5才の時亡くなった。祖母は65歳であるが、家庭のためにまだ宿舍の守衛をやっている。Y5の母親は、食品工場で仕事をしていたが、3年前工場が倒産した。父親も3年前工場を解雇された。それから、夫婦2人で新聞の販売をやり、現在毎日の収入は30元程度で、一家の生活を維持している。

#### 【事例紹介2—維持型家庭】

S1の両親はともに済南市の出身である。父親の両親は綿紡績工場の労働者であったため、S1の父親は高校卒業後同じ綿紡績工場に就職した。いままでずっと機械のメンテナンスの仕事をしてきている。S1の母親の小さい時祖父がなくなった。母親は小学校の先生であった。高校卒業後家庭の経済事情もあって、当時収入のいい綿紡績工場に就職した。20年ぐらい生産現場で仕事をして、現在は早期退職をした。

#### 【事例紹介3—上昇型家庭】

Y1の父親は今年43歳で、母親は42歳である。2人とも、中国の「文化大革命」を経験し、あまり良い教

育を受けなかった。高校卒業後、「上山下郷」運動を経て、工場に就職した。父親は、現場生産者として12年間働き、2年前から職長となった。母親はずっとブルーカラーであるが、2前に元の工場が倒産し、一度失業した経験がある。いま別の企業で働いている。

労働者家庭の親たちの半分以上は失業状態におかれている。産業構造の変化によって、競争に負けて倒産する企業が多い。失業者の大量出現は本研究においても確認できる。労働者家庭の父親の中で、失業型に属するのは9人、維持型は5人、上昇型は4人である。

#### 4. 成績下位の労働者階層生徒とその家庭

今回の質問紙調査では、全部で63名の労働者家庭の生徒の58.7%(37名)が成績下位のカテゴリーに属した。これらの生徒の家庭や親たちは、いかなる特徴を持ち、生徒の学業達成にどのような影響を与えているのだろうか。以下、11名の生徒とその親のインタビューの分析を通じて、親の職業的状況と家庭の経済、文化資本、社会関係資本の所有状況、そして教育戦略を明らかにする。

##### 4.1 成績下位の労働者家庭の親の職業的状況

成績下位生徒の両親の職業を表3に示す。11名の生徒の父親のうち、8人は集団企業に属し、3名は国営企業に属している。そして現在、失業あるいは一時帰休者が7人いる。成績下位の生徒の親たちは、職業が不安定であることが多い。

親たちが初就職で入った工場は、その多くが規模の小さい企業や、当時の地位の低い非国営企業だったため、大きな国営企業と比べて、収入や福祉、住宅事情などの面で、一定の差が存在した。その後、より社会の経済変化に影響されやすい非国営企業には、倒産やリストラが多く発生した(表3)。

表3. 成績下位の生徒の父親の職業状況

職業状況	国営企業	集団企業	総計
失業	1	6	7
早期退職	1	0	1
仕事維持	1	2	3

労働者家庭の親たちは、失業すると再就職が難しい。産業構造が変化し、労働者に対する技術的な要求が大きく変わりつつある中で、教育水準の相対的に低い労働者

家庭の親たちは、次の仕事を簡単に手に入れることができない。また、昔の上層階層のプライドが幾分親たちのなかに残存し、自尊心を損なう様な仕事には強い抵抗意識がある。成績下位の生徒の親には、この両方の原因によって失業状態が長く続いている者が多い。

「一緒に下崗(失業)した人の中で、40才ぐらいの人は一番難しいですね。学歴もなければ、大した技術もない、その上、年齢の面でも体力の面でも競争力が全然ありませんから、大体の人はいい仕事を見つからないです。私は家の近くで日用雑貨を売っていますが、こうする人が多いので、あまり稼げません。」(S8の父親)

職業が唯一の生活手段である労働者家庭において、失業は大きなダメージを与え、親が精神的に不安定となる。これらの家庭では、正常な目標の崩壊が起き、時間の管理がきかなくなり、家庭そのものが崩壊することも少なくない。成績下位生徒の家庭の中に、両親が共に失業した家庭は5つあるが、そのうち一つの家庭の両親が離婚の調停に入っている。

##### 4.2 成績下位生徒の家庭の諸資源

###### 経済資本

成績下位の生徒の家庭の中には、相対的に収入の高い家庭もあるが、その大多数の親の収入は低い。11の家庭の中で、家庭年収が2万5千元を超える家庭は2つある。しかしほかの9つの家庭は、8千元から1万5千元の範囲に止まる。

収入の不安定で、経済の窮屈な状況はその生徒の家庭の全体生活を影響することはほぼ避けられない状況である。目前の生活のために、両親は精一杯で、心理的な不安も強い。

「私は99年に事実上失業しました。…両親や親戚の援助をも受けて、なんとか生活を維持していますが、食料を買うお金さえなくなった時もあります。」(S4の父親)

親の収入の低下によって、労働者家庭の生活水準は著しく低下する。多くの家庭は、親戚などの援助を受けながら生活を維持している。時々、子どもを祖父母の家に行かせてご馳走を貰う家庭もある。このような状況は、家庭の物的な環境にも見られる。三分の二に

当たる8の家庭では、親たちの結婚時に買った家具をまだ使い続けており、古いテレビと冷蔵庫以外の家庭電気製品をほとんど持っていない。

失業労働者家庭には、経済の不安だけではなく、家庭生活全体の不安も強い。両親の喧嘩、子どもへの体罰、子どもの親への反抗などが家庭関係のパターンを形成してきた。普段の家庭生活にストレスがたまり、仕事の変化によって家庭生活の時間のリズムも失っている。子どもと一緒に過ごす時間さえ少なくなると、子どもの状況の把握、子どもとの交流も難しくなる。

### 文化資本

成績下位生徒の親の学歴は特に低いということはない。11人の父親の中で、中学校卒業者は5人で、高校や職業高校卒業者は6人である。しかし、その親たちほとんど全員が、自分の受けた教育に対して自信を持っていない。

「私たちは農村から来ましたから、文化水準は高くありません。その頃は張鉄生という人が試験の時何もしないで、『白紙』を先生に返したこともありましたね。その時、英雄のような宣伝をされました。私たちもあまり勉強しませんでした。」(Y5の母親)

親たちの勉強に対する自信のなさは、子どもの勉強の支援に大きく影響する。小学校の段階から家庭での勉強指導は少なく、中学校に入ってから全く指導しないという現象が、10の家庭に存在していた。

「私は78年に高校を卒業しました。『文化大革命』の時の生徒たちは、あまり勉強しませんでしたので、基礎知識が不足しています。現在子どもの勉強の指導はできません。小学校の時は少しは出来ました。中学校に入ってから、全然出来なくなりました。特に英語なんか、全くわかりません。」(Y4の母親)

成績下位の生徒の家庭の文化資本の所有状況、あるいは文化資本への投資状況は、経済資本の状況と連動することが多い。11人の生徒の家庭では、所有する本の平均数が10冊に過ぎない。コンピュータを保有する家庭は4つしかない。家庭の文化的消費は、これらの家庭にとって、必要性を感じないこと、意味のないことである。

「家では本をあまり買いません。子どもは学校から配られた教科書さえきちんと読んでくれませんか、別の本を買っても全然役に立たないと思います。学校が配ってくれた本を読めばもう充分ではないですか。」(W4の父親)

11の家庭には文化資本の欠乏現象が目立つ。文化資本に接触する機会の少なさに大いに関係すると思われるが、家庭の経済状況による制限も無視できない。

### 社会関係資本

成績下位の生徒の家庭では、社会関係資本、特に子どもの学業達成に役立つ社会関係資本が、多くの場合より限定的である。親戚の中に、大学卒業者や大学在学者はあまり存在しない。存在しても親戚同士の交流が少ない。またその家は、ほとんど工場の住宅区や雑居ビルのような地域にあり、文化地域とのつながりがあまり見られない。周囲の文化施設の数も少なく、文化施設の利用は極めて少ない。成績下位の生徒の家庭は、社会関係資本の不足から、より文化資本から隔離されている。

「現在は工場に勤めていませんので、仕事仲間はいません。子どもの教育についての情報は少ないです。これはしょうがないです。」(Y4の母親)

「私たち夫婦は早期退職しています。毎日、付き合いがあるのは隣人たちだけです。みんな大体同じ状況ですね。」(S6の父親)

成績下位生徒の親たちの多くは小規模な企業に勤めている。もともとその中小企業の中には、高い学歴の人はあまりいない。この点で、大企業と比べて大きな違いが存在する。この様な中小企業の中の同階層の人としか社会ネットワークを持っていない現状は、ほかの階層との文化的接触の可能性を極めて低くしている。

成績下位生徒の家庭には、子どもの勉強に役立つと思われる社会関係資本はすくない。親戚のネットワークと職場のネットワークの双方において、その家庭の子どもの勉強モデルになる人間はほとんど存在しない。

## 4.3 成績下位生徒の家庭の教育戦略

### 4.3.1 子どもの教育への認識の曖昧さと教育モチベーションの低下

成績下位の生徒の家庭であっても、子どもの小さい

時は、子どもの学歴に対する希望は決して低いものではなかった。11の家庭の内、できれば子どもが大学に行って欲しかったという親は9人もいる。しかし、子どもの教育に対して、明確な意識を持つ家庭は少ない。「何も考えていなかった」、「ちょっと数字や漢字を教えてみたんですが、あまり興味がない様でしたので、やめちゃった」、「飢えることなければもう満足ですので、教育のことがあまり考えなかった」という様な家庭は多い。そして中学校2年の時点で、8家庭の親が、子どもの成績が低いという理由からその大学進学を断念していた。

「息子は高校にあげれないと思います。高校、大学に行かせたくない訳ではないですが、それは現実性がありません。息子には手に職さえあれば、仕事を見つけて、生活を保証できると思います。それができれば、親としても満足です。子どもには高い期待を持っていません。子どもに好条件を作ってもやれませんから。」(Y4の母親)

更に、11の家庭の中には、親が子どものコントロールができなくなり、お手上げの状態となる家庭も存在している。

「高校への進学はもう無理だと思います。本人が専門学校にも行きたくないといっていますが、そうになると、仕事が全然見つからないです。どうやって食えるのかは、親として非常に心配ですが、いい方法がないです。」(W5の父親)

「いま子どもが学校で全然勉強をしません。同じ様な子どもがよく集まって遊んでいます。犯罪でもしなければ、もう感謝です。ですからほかのことは考えていません。」(S8の母親)

成績下位生徒の親たちは、一方で学歴の意味を認識し、できれば子どもが大学に行きたくないと考えている。しかし、どの様にすればそれが達成できるのか、ほとんど分からない状態にある。どうしたら子どもがよい成績を取れるかを、その家庭の親たちは理解していない。つまり、学業達成に置いて、親たちの目標と方法の間に大きな隔たりが存在する。そして、子どもの成績の低下が始まるにつれて、子どもに対する期待も放棄するようになっていく。

#### 4.3.2 勉強の子ども任せと学校任せ

成績下位生徒の親たちの多くは、子どもの勉強に対する無力感が強い。小学校のころから、家での勉強を促す言動はよくするものの、具体的な指導や方法の提供はあまり行っていない。特に、子どもの成績の低下が現れる時に、叱責して終わる現象が何人かの家庭に見られる。その親たちは、よく勉強しろという抽象的な目標を立てるにとどまり、その達成の方法を子どもに任せる点で共通している。

「小学校の時、家に帰ったら宿題をしろと注意したことはありました。いつもいい加減に済ませました。叱っても、体罰を与えても、効果はあまりありませんでした。私たちも忙しくて、いつも家にいて指導することはできません。その頃よく先生に学校まで呼び出されましたが、親もどうしようもありません。中学校に入ってからは、息子はもっと勉強をしなくなりました。中学校の勉強は、私たちはわかりません。指導したくても、その能力がないのです。…現在勉強しないと、将来社会人になったら、きっと後悔すると時々言いますが、全然聞いてくれません。」(Y5の母親)

成績下位生徒の家庭は、子どもの教育について、学校側に強く依存している。親たちは、自分の能力、時間、経済力の弱さもあって、子どもの教育を学校あるいは先生がもっと重視して欲しいという意識を強く持っている。子どもが先生に重視されないこともよくあり、親たちは不満を持っているが、このような不満を学校側に伝える勇気もなかなか出ない。そしてこのような学校側に対する不信感から、学校への協力も少なくなっている。学校に大きく期待しているにもかかわらず、学校、先生との交流がうまく行っていないのである。

「息子はいつも教室の最後に座られています。しかも、周りは、勉強が出来ない子ばかりです。もし周りに勉強の出来る子がいれば、多分息子に良い影響を与えてくれると思いますが、先生はそうしてくれません。自分の子どもは成績がよくないので、恥ずかしくて、先生にこの要求を話すことができませんでした。現在、PTA会にさえ出席したくなくなりました。学校で私の子のような生徒は少なくなっていると思いますが、なぜ学校は成績の良い子ばかりを熱心に扱うのでしょうか。」(Y4の母親)

成績のよくない生徒の家庭は、先生との連絡が相対的に少ない。その理由は、時間がないことにくわえ、子どもの成績がよくないために先生と会うと恥ずかしくなることにある。先生と連絡をするのは、子どもが悪いことをしたときが多い。

成績下位生徒の家庭は、複雑な様相を呈している。収入の相対的に高い家庭も存在するが、経済的に貧しい家庭が多い。文化資本と社会関係資本の面に置いては、低い水準に止まる家庭がほとんどである。経済資本、文化資本、社会関係資本の3つの側面から見ると、11の家庭のほとんどが労働者階級の中でも低い部分に位置しているといえよう。この様な状況のもとで、その家庭の親たちは、子どもの学業達成を諦めざるをえない。子どもの学業より、次の進路に関心を移す家庭がほとんどである。

## 5. 成績上位の労働者階層生徒とその家庭

三つのクラスにおける全部の労働者家庭の生徒63名のうち、成績が学級の上位に入っていたのは13名である。本研究ではそのうち7名の家庭を訪問し、インタビューを実施した。

### 5.1 成績上位の労働者家庭生徒の親の職業状況

成績上位の7名生徒の親たちの初職はみんな工場労働者である。父親たちは生産現場でおおむね10年以上仕事が続いていた。この点ではほかの労働者家庭とはあまり変わらない。しかし、近年の7名生徒の父親の職業変化には、成績下位生徒の親とは違う特徴が見られる。7名生徒の父親は、厳しい経済環境の中で、相対的に安定する仕事が続いていた。7人の親の企業は、国営大中企業が多く、7人のうち3人の父親は就職後に職長や営業マンとなり、1人は低級技術者になっている。そのほか、2人の親は工場労働者のままではあるが、生産のベテランであり、仕事場は安定している。早期退職者はただ1人である。失業者は多く出る状況の中では、成績上位の生徒の父親は、安定あるいは一定の上昇変動を成し遂げている。労働者階層の中では、上層に位置する(表4)。

表4. 成績上位の生徒の父親の職業状況

職業状況	国有企業	集団企業	総計
早期退職	0	1	1
仕事維持	1	1	2
仕事昇進	4	0	4

成績上位生徒の家庭状況は、共通する特徴がある。1つは社会変化による各家庭への衝撃が相対的に小さかった事である。中国の産業構造の変化のそれぞれの企業、職業への影響は一律ではない。成績上位生徒の親たちが所属する企業は、一定の影響を受けているが、企業はまだ存続している。職場の存続は、親たちの職業的アイデンティティ、収入の相対的な安定、そして社会的ネットワークの維持に、大きな役割を果たしている。2つ目に、成績上位生徒の家庭は、その衝撃への対応能力が相対的に高い。成績上位生徒の家庭はそれぞれに独自の特色があるが、その生活状況は相対的に安定している。両親の中には、一時仕事が無くなったり、あるいは、仕事が変わったりする者もあったが、家庭の収入や、その社会的地位の変化は大きくなかった。

### 5.2 成績上位の生徒家庭の諸資源 経済資本

成績上位生徒の親たちの多くは、国営の大・中企業に勤めている。80年代から90年代の半ばにかけて、国営企業の多くは収入の面において安定していた。特に80年代には国営企業の労働者の平均月収は、普通の学校の教師よりも高い時期があった。その後はほかの職業と比べて低い水準に留まっているが、きちんとした収入をもらえている。

「85年頃、私の企業の収入はとてもよかったです。ボーナスを含めて隣の小学校の先生より高かったですよ。いまは学校の先生と全然比べ物にならないですが、いい時期もありましたね。」(S4の母親)

現在労働者家庭の平均的経済状況は、済南市の平均年収に比べて少し下回っている。しかし、7人の成績上位の生徒の家庭の平均年収は2.4万元で、労働者家庭の平均年収の1.9万元を上回っている。このような状況に対して、7人の生徒の親たちは、全く不安を感じていないわけではないが、他の労働者家庭に対して優越感を感じてもいる。

「私ども夫婦は、工人(工場労働者)です。社会的地位は低いです。昔はすこし良かったが、現在工人はもう重視されていません。将来に対して、すこし心配ですが、しかし、失業家庭と比べて、私たちの生活はまだ中等レベルです。」(Y1の父親)

相対的に安定した収入は、成績上位生徒の家庭に一定の安心感をもたらす。その親たちは、収入の減少の影響を一定の範囲に収め、家庭の運営を維持している。この特徴は7家庭の中に唯一の失業家庭にも見られる。失業家庭の親は、失業後電気修理の仕事を始まり、一定の収入を得られている。

### 文化資本

7名の生徒の父親の学歴はほとんど高校卒にとどまっていた。親の学歴から見た家庭の文化的環境は決して高くない。しかし、父親たちの出身を見れば、専門職、政府幹部といった社会的上層部の出身者が何人かいる。言い換えれば、親たちは社会上層から労働者階層に入っており、その親たちの親は高い教育水準を持っていた。その教育水準は、文化大革命によって再生産されなかったが、「身体化された文化資本」として親たちに継承された。その親たちは、学校教育システムを熟知し、学校の知識をよく理解している。それゆえ、子どもの教育に対して、一定の自信を持っている。

「子どもの自尊心を傷つけるのは駄目です。もちろん、私も子どもも全部100点を取ればうれしいけど、でもこれは不可能で、必要ありません。息子の成績がよくないとき、原因を見つけ、アドバイスをするのはいいことです。」(Y1の父親)

成績上位の生徒の家庭は、本を相対的に多く持っている。コンピュータや楽器などを持つ家庭も多く見られる。経済状況が決して裕福ではない中、文化消費財に対する投資は普通の労働者家庭より多い。

「私の考えでは、楽器への投資は価値があります。舞台上に立っての演奏はしなくても、将来、大学に入ったら、趣味にしてもいいじゃないですか。これは、自分自身への投資です。電子オルガンを買うのに、2,800円かかったが、これは価値があります。」(Y1の父親)

「私は印刷工場で働きました。当時、工場で古く

なった本をもらってきて、息子に与えた事もあります。息子はとても本が好きで、時々、『母さん、最近いい本はある?』と言います。いま家には600冊の本があります。」(Y2の母親)

成績のいい生徒の家庭は、経済的に豊かな層と比べて必ずしも豊富な経済資源に恵まれているとはいえない。しかし、それらの家庭は、家庭の安定という条件と両親の教育熱心さから、文化資本への投資が多く行われ、本やコンピュータ、そして楽器などに象徴される文化資本の蓄積が多い。

### 社会関係資本

7名の生徒の家庭に共通する特徴は、有効な社会的ネットワークを持っていることである。祖父世帯や親戚の中には、大学の卒業者や在学者が多い。親戚のつながりも緊密で、特に子どもの勉強に関する協力が多

い。「親戚の中で大学生は多いですね。妻の兄の息子は山東大学で勉強しています。姉の息子は建築大学で勉強しています。息子ともう1人の姉はまだ中学生と高校生ですが、成績はかなり良いです。いとこの間には、お互いに競争があるみたいです。いとこより、もっと良い大学に入りたいですね。これは、良い環境だと思います。」(Y1の父親)

成績上位の家庭には、もう一つの社会上層に繋がる環境が存在している。職場の高い学歴を持つ人々との付き合いである。7名の生徒のうち5人の親は、大中国営企業に勤めているため、仕事場に大学学歴を持つ人が多い。その人たちとの交流を通じて、アドバイスを得たり、学校教育についての知識を得たりすることが出来る。

「中学校に入った後、初めの2ヶ月は、娘はすごく緊張しているようでした。特に英語は難しそうだったので、私もとても焦りました。同僚から、英語の勉強の近道はないが、よく読む、よく聞く、よく話すのが、一番有効な方法だって言われました。これを娘に話したら、緊張が大分やわらげられ、だんだん落ち着きました。」(Y3の母親)

成績上位生徒の家庭は、ある程度、教育情報のネットワークを持っている。親戚、友だち、仕事仲間など



との付き合い、交流を通じて、子どもの勉強に役立つ情報を、時々もらっている。子どもの勉強や、学校生活に何かのトラブルが発生したときにも、これらのネットワークから、助言や実際の手伝いをもらうことが多い。

成績上位生徒の家庭の多くには近くに大学経験者が存在している。これらの人々は子どもの進学のモデルであり、これらの人との交流は、大学に関連する情報をよく伝えてくれる。その家庭の生徒の勉強の原動力にもなる。

### 5.3 成績上位生徒家庭の教育戦略

#### 5.3.1 教育モチベーションと早期教育

成績上位の生徒の親たちは、子どもの教育に対して、明確な意識を持っていることが多い。成績上位の生徒たちの親の多くは、学生時代の成績がよく、大学の受験で僅かな差で落ちた親も何人かいる。就職以後、通信大学で勉強し続けた親もいる。労働者階級の地位低下を経験した親たちは、自分自身の経験を子どもにさせたくないという。

「親は子どもの勉強にそんなに大きい影響を与えているとは言えませんが、しかし、親として子どもの勉強を重視しなければなりません。まず子どもを尊重し、支持する事は重要です。良い環境を作ってやるのは、子どもの勉強意欲を引き出す条件です。時々職場のことも娘に話します。われわれは、仕事を一所懸命やっています。そうしなければ、解雇される。失業すると、怖いですよ。だから、生徒の本業は勉強です。成績は重要です。」(Y3の母親)

「…将来、いい仕事、いい収入があることこそ、生存の条件です。いまの勉強は、将来の仕事と関連して考えるべきだと、時々息子に話しています。」(Y2の父親)

クラークの黒人の貧しい家庭に関する研究は、成績のいい生徒の親自身は高い教育水準に達していないにもかかわらず、それぞれの家庭には、一定の体系付けられたポリシーがあることを指摘した(Reginald M. Clark 1983)。この現象は、本研究にも見られる。親の子どもに対する責任意識、子どもへの規範の提供、家庭目標の明確化と家庭の積極的雰囲気形成を、成績上位生徒の家庭から確認できる。

成績上位生徒の家庭は、家庭の安定という条件と両

親の教育熱心さから、早期教育の実施という戦略を採った点でも共通している。早期教育の成功によって、子どもが小学校に入った段階では既に有利な立場を獲得していた。更に入学後、先生の誉め言葉、ほかの子どもの尊敬、自己満足と自尊心の形成などの要因から、勉強に対する一層の動機づけが生まれ、勉強やその方法の蓄積もすすむ。同時に、家庭の1つあるいは1つ以上の教育資源を十分に活用することを通じて、家庭要因と学校要因が相乗効果を発揮して、子どもの高成績を維持することができた。

#### 5.3.2 祖父母世代の持つ文化資本の利用

成績上位生徒の家庭の中には、祖父が専門職や政府幹部そして企業管理者である家庭が五つある。これらの家庭では、祖父の持つ文化資本を子育てに積極的に利用している。中国では、退職した祖父母が仕事で忙しい親の代わりに孫の面倒を見たり日常生活の世話をしたりすることが、一般的な慣習となっている。

「祖父は大学の先生です。小さい頃から、いろんな事を教えてくれました。ですから、僕は他の子どもより、漢字を覚えるのが早かったです。小学校3年までの学習内容は、僕にとって、すごく簡単でした。大体祖父、祖母、両親がすでに教えてくれた内容でした。中学校一年までずっと祖父と一緒に生活していましたので、祖父の影響は大きいです。」(Y1)

成績上位生徒の親たちは、必ずしも意図的に祖父母の持つ文化資本を利用するとは限らない。しかし、中国の家庭の中に普遍的に存在する孫の世話をする文化は、祖父母世代の持つ資源を孫に直接伝達するルートが存在させている。このようなルートは、祖父母が相対的に高い文化資本を持つ場合は、孫世代の教育による影響をもたらすことができる成績上位生徒の家庭では、この祖父母と孫の緊密な関係によって、祖父母の持つ文化資本を直接に孫に伝達することが可能となっていた。

#### 5.3.3 学校との連携

成績上位生徒の親は、積極的に学校の先生とかかわるという戦略を重視している点で共通している。5人の親は、小学校のはじめから、先生と付き合うことに成功し、先生からいろいろチャンスを与えられたという。先生をよく訪れ助言などを受けた。このような親

と先生との緊密なかかわりは、子どもにいい影響を与えている。

「私は、学校の先生との関係をととても重視します。息子が、小学校に入ったとき、私は父母会に参加して、先生とよく話しました。翌日には、先生に手紙を書きました。大体の内容は、自分の子どもが先生のクラスで勉強させていただいて、とても光栄と感じており、これからは、必ず積極的に先生に協力するということでした。先生は喜んでくれて、息子にも注目してくれるようになりました。」(Y1の父親)

成績上位生徒の親は、経済、文化資本の制限を受けていることを明確に認識している。そのために、自分自身が利用できるほかの資源に積極的にアプローチしている。学校の先生との良好的な関係作りは、その家庭の教育戦略の重要な一部となり、子どもの学校への適応を促す。

成績上位生徒の家庭のほとんどは、経済的、文化的には、労働者階層の上層部に位置する。つまり、それらの家庭は、社会上層との親近性によって、子どもの学業に有利な家庭構造を形成し、そして限られる諸資源の戦略的な使用によって、普通の労働者家庭が直面する障害を乗り越えることが可能となっていた。

## 6. 結び

本稿において、中国済南市の労働者階層の生徒の家庭の分析を通じて、その成績の差異をもたらす家庭的要因を明らかにした。

中国社会の激しい社会変化は、多くの労働者家庭の生徒の学業達成にマイナスの影響を与えていた。労働者家庭の生徒のうち、成績の面において上位に達するものは僅かである。親たちの多くは、自分自身の失業や転職などの生存問題にも絡んで、子どもの教育へのモチベーションや関与が弱くなる。子どもの教育への投資は、家庭の経済状況の悪化に伴い、最小限に抑えられる。労働者家庭の生徒たちの多くは、文化資本、経済資本、社会関係資本という三つの壁に同時にぶつかっていた。

その様な状況のもとで、労働者家庭の親たちの教育戦略の選択は大きく制限され、子ども自身の努力と学校に対する期待に集中しがちだった。特に高い教育期待をもちながらも、その達成手段の乏しい状態が常に

存在している。その様な家庭内の緊張から、高い教育への期待は、早くも小学校の高学年や中学校段階で捨てられ、子どもの教育達成への関心は、子どもの生活手段や進学以外の進路の方に移行する。学校教育の意味は失われる。中学校卒業証書は、学校教育への決別のあかしとなる。労働者階層の家庭の多くは、上層の文化から遠く離れている。そのような社会構造の制限を受け、学業達成において低い水準に留まることが強いられている。

同時に、労働者家庭の子どもであるにも関わらず、学業達成において成功するケースの分析を通じて、その背後に働くメカニズムも明らかになった。7名の成績上位の労働者家庭の生徒は、その親たちの多くが専門職、幹部の家庭出身である。そのような家庭には上層階層の文化への接近のルートが残されている。親自身にも、祖父世代のように文化資本が高い学歴という形にならなかったものの、学校に親近性を持つ態度や、相対的に高い勉強能力などの「身体化された文化資本」を継承していた。そして、自分自身に経験した社会地位の転落や、高い学歴への希望などは、子どもに対するより高い期待へと転化し、子どもの学業達成への原動力となっていた。成績上位の生徒の家庭にはもう一つの共通点が存在する。職業の相対的に安定である。経済的に決して裕福ではないが、家庭の基本的生活は保持でき、子どもの教育への投資が積極的に行われている。労働者階層において、職業と経済が相対的に安定し、上層文化に接近するルートが維持されている家庭は、社会上階層に隣接することによって、その子どもの学業達成に有利な影響を及ぼしていた。

労働者家庭生徒の学業差異をもたらす要因とメカニズムの理論的解釈の中では、ブルデューの文化再生産論は労働者階級を同一のものとし、この理論に反対したクラックの研究は、労働者やマイノリティ家庭の中で、各自の家庭のプロセスによって、その子どもがよい成績を取ることができると主張し、社会構造の拘束性を否定した。本稿では、労働者階級の子どもの学業達成への影響要因を分析し、労働者家庭の多様性と社会構造の拘束性の統合的な理解の可能性を示した。特殊な歴史的な要因によって、中国の労働者階層には各階層の出身者が存在している。したがって、労働者階層にも多様な文化が存在し、子どもの学業への影響は一様ではない。この異なる影響は、上層階層の文化への距離によって規定される。即ち、労働者家庭の子どもの学業達成は、やはり社会構造の拘束性を受ける。

本稿での分析から、文化資本、経済資本、社会関係資本の相互関係構造について、以下の示唆を得ることができた。つまり、家庭の諸資本のうち、文化資本は子どもの学業達成を大きく規定する。文化資本は経済資本とは独立して蓄積され、伝達されている。同時に、社会関係資本は、文化資本と緊密な関係を持ちながら、子どもの学業達成や学校適応に影響する。つまり、社会関係資本によって文化資本を獲得する可能性が存在する。経済資本は労働者家庭の全体的な安定に影響を与え、子どもの進路選択に影響するが、しかし、経済資本による文化資本と社会関係資本の獲得は確認できなかった。

本稿は、成績上位と成績下位の軸に沿って、労働者家庭生徒の学業達成に影響する家庭要因を分析し、二つカテゴリーの中でそれぞれの家庭に共通する特徴をまとめた。このため、各家庭カテゴリーの中で、より多様な側面については触れることができなかった。従って、本稿では個別のケースの特性を捉えきられていない。異なる特徴を持つケースの更なる分析を今後の課題としたい。

(指導教官 佐藤学教授)

【参考文献】

Annette Lareau 1989 Home Advantage: Social Class and Parental in

Elementary Education The Falmer Press  
 Deng, Zhong & Donald J. Treiman, The impact of Culture Revolution on Trends in Educational Attainment in the People's Republic of China, *American Journal of sociology*, 1997, 103: pp.391~428  
 James S. Coleman 1988 Social Capital in the Creation of Human Capital *American Journal of Sociology*, Volume 94, pp95-120  
 神原文子著 2000 『教育と家族の不平等問題』 恒星社厚生閣  
 P.ブルデュー & J. C.パスロン 1996『再生産：教育・社会・文化』（宮島喬訳）藤原書店  
 P.ブルデュー & J. C.パスロン 1997『遺産相続者たち：学生と文化』（戸田清ほか訳）藤原書店  
 Pierre Bourdieu 1986 The Forms of Capital J. E. Richardson(ed.), *Handbook of Research for the Sociology of Education* 1986 Greenword Press pp241-258  
 Reginald M. Clark 1983 Family Life and School Achievement The University of Chicago Press  
 張紀濤著 2001 『現代中国社会保障論』 創成社  
 Zhuo Xueguang Phyllis Moen and Nancy Brandon Tuma, educational stratification in urban China: 1949~1994, *sociology of education*, 1998, 71: 199~222;

(中国語文献)  
 陸学芸編 2002 『当代中国社会階層研究報告』 社会科学文献出版社  
 顧志躍著 1999 『中小學生課業負担状況調査与分析』 広西教育出版社  
 李強著 2002 『転型时期的中国社会分層結構』 黒龍江人民出版社  
 辺燕杰編 2002 『市場転型与社会分層—美国社会学者分析中国』 生活・読書・新知三聯書店

【付録】インタビュー家庭リスト

No.	成績	父親 現職	母親 現職	両親学歴		年収 (万元)	本数	進学希望	祖父(父側)	
				父親	母親				職業	学歴
Y1	上	職長	労働者	通信短大	高校	2.16	100	重点高校	大学教授	大学
Y2	上	電気工	早期退職	高校	高校	2.28	600	重点高校	工場長	中学校
Y3	上	営業	倉庫管理	専門学校	専門学校	2.04	150	重点高校	農村会計	中学校
Y4	下	工場労働者	失業	高校	高校	1.4	11	専門学校	軍隊幹部	高校
Y5	下	失業	新聞販売	中学校	中学校	1.5	5	専門学校	官庁長	高校
S1	上	工場労働者	事務	高校	高校	2.4	30	普通高校	工場労働者	中学校
S2	上	早期退職	営業	高校	高校	3	35	普通高校	農業	小学校
S3	下	早期退職	早期退職	中学校	中学校	1.2	8	専門学校	工場労働者	小学校
S4	下	失業	なし	中学校	中学校	0.8	11	専門学校	工場労働者	小学校
S5	下	一時帰休	自営業	中学校	中学校	2	5	なし	工場幹部	中学校
S6	下	失業	一時帰休	中学校	中学校	1.4	7	専門学校	農業	小学校
S7	下	工場労働者	工場労働者	高校	中学校	3	20	普通高校	工場幹部	小学校
S8	下	失業	工場労働者	高校	中学校	1.5	13	技術学校	工場技術員	技術学校
w1	上	工場労働者	一時帰休	高校	高校	2.2	30	普通高校	工場技術員	専門学校
W2	上	職長	工場労働者	高校	中学校	2.7	33	重点高校	市職員	高校
W3	下	工場労働者	一時帰休	高校	高校	2.8	10	技術学校	工場幹部	中学校
W4	下	失業	失業	高校	高校	1.1	14	なし	商業	小学校
W5	下	失業	一時帰休	中学校	中学校	1	7	なし	ドライバー	中学校